

至誠通天

藤井 勇治



※至誠通天 誠を尽くせば天が味方してくれること

長浜曳山まつり東京公演!

7月9日に、「びわ湖長浜曳山まつり東京公演」が、国立劇場で開催されました。

長浜曳山まつりは、豊臣秀吉が長浜城主であったころから伝わっており、400年以上の歴史と伝統のありまです。今回の東京公演は、長浜曳山まつりが昨年12月、ユネスコ無形文化遺産に登録された記念事業として計画され、全国・世界に発信させるという熱い思いを実現することができました。

会場には、前日、長浜から山組や子ども役者等々200人を超える実行委員の皆さんが集結し、綿密なりハ―サルを行い、本番に備えました。

公演当日は、午前の1部も午後の2部も首都圏や全国からのお客様で満席でした。

国立劇場という最高の舞台の幕が開き、私は実行委員長(長浜市長)として挨拶に立ち、「豊臣秀吉が長浜城主であったころから伝わり、町衆



▲東京公演の様子(国立劇場)

により受け継がれ、今回ユネスコ登録されたことは市民の誇りであり、滋賀県の宝。世界に認められた長浜曳山まつりを末永く継承していくために皆で一緒に尽力してまいりましょう。」と申しあげました。そして、いよいよ子ども歌舞伎の登場。見事に演じられ、感動と感激で大盛況の拍手が沸きあがりました。子ども役者の皆さん本当にありがとう。皆さんの国立劇場での熱演は生涯の思い出となりました。

また、長浜市と都市間協定を結ぶ台東区の浅草寺横の浅草神社でも公演され、浅草と長浜の子ども歌舞伎の交流事業を行いました。大勢の観光客で賑わう中、子ども歌舞伎の絆が結ばれて、大きな成果を上げることができました。

ながはまの文化財

あめのもり ほうしゅう 雨森芳洲 特集

今秋の雨森芳洲関連資料のユネスコ「世界の記憶」登録に向けて、10月号までながはまの文化財のページで雨森芳洲の紹介を行います。



▶雨森芳洲の肖像(芳洲会贈)

芳洲の国際感覚① 日本人には日本の○○

「日本人には日本の○○、朝鮮人には朝鮮の○○、中国人には中国の○○、オランダ人にはオランダの○○が、一番合うものだ」

この文は、芳洲が61歳の時に対馬藩主に提出した、対朝鮮外交の指針書『交隣提醒』の言葉です。さて、芳洲は「○○」の部分には、何を書いたのでしょうか。みなさんも、一緒に考えてみてください。

①水、②酒、③家、④衣服。

「所変われば水変わる」ってよく言いますよね。お酒も、日本では日本酒、朝鮮半島ではマッコリ、中国には老酒、西洋ではワインなど、それぞれの土地で異なります。また、湿度の高い日本では通気性を重視した家や衣服が好まれ、寒い土地では床暖房や体温を逃がさない袖先をくくった衣服が好まれます。①から④まで、どれも当てはまりそうですが、さて芳洲はどれを書いたのでしょうか。

正解は②の「酒」です。「日本人には日本の酒、朝鮮人には朝鮮の酒、中国人には中国の酒、オランダ人にはオランダの酒が、一番

お元気ですか



長浜市立湖北病院皮膚科 部長 齋藤 卓也

日光角化症にご注意

日光角化症は、日光(紫外線)を浴び続けてきたことにより発症します。特に、紫外線による影響が長年蓄積された60才以上の人で多く認められます。

紫外線の影響を受ける顔や頭部への発生が多く、手背部にも発症します。大きさは1〜2センチほどで、表面にカサカサとした角質やかさぶたなどを伴う、赤いまだら状のシミとしてあらわれます。

日光角化症は、有棘細胞癌という皮膚癌のごく早期の病変と考えられています。日光角化症を治療せずに放置すると有棘細胞癌へと移行する可能性があります。現状では、いつどのような条件で有棘細胞癌へと進展するかについては解明されていない

いたため、日光角化症の段階で適切な治療をしておくことが大切です。

日光角化症には痛みやかゆみなどの自覚症状は、ほとんどありません。このため、症状を見逃すことが多く、気づいた時にはすでに有棘細胞癌に進行してしまつた、ということもあります。

皆さんも、自分の顔を見て、次のような症状がないか確認してみてください。

- 1 赤いまだら状のシミがある。
- 2 黄色味がかった「かさぶた」がついている。
- 3 表面がザラザラしている。
- 4 シミの形が不規則で、皮膚との境が不明瞭。
- 5 触ると硬い。

問 長浜市立湖北病院 (082-33315) (代表)

高校生会議

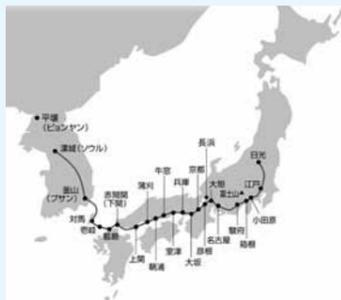
「列島各地に残る朝鮮通信使の足跡を考える」

日本各地の高校生が、自分たちの地域の朝鮮通信使の足跡をたどり、学習しています。今回の高校生会議では長浜・高月に集まり、学習の成果を発表、報告します。ぜひご来聴ください。

【とき】 8月19日(土) 13時〜17時
【ところ】 高月まちづくりセンター (高月町渡岸寺)

【内容】 基調講演
・ 高校生の発表
・ 高校生と韓国・日本の研究者との対談

【主催】 「地域から考える世界史」プロジェクト



問 長浜城歴史博物館 (063-4611)